

電波時計(デジタル音声目覚まし時計)取扱説明書

取扱説明書番号 D053-CXXZ

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信してカレンダーと時刻を自動修正
- 音声で日付、曜日、時刻、温度をお知らせします
- カレンダーと温度を表示
- 2つのアラームが使えます

ご購入いただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

発売元 **リズム時計工業株式会社**
〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

CITIZEN はシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

(Y0912)

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。つぎの記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

- 修理部品の保有について
この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、3年間を基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似の代替品を使用したり、現品交換させていただくことがあります。
- 修理可能期間について
無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。
- 転居または贈答品の場合
転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

アフターサービスなどについてご不明なことがありましたらお客様相談室にお問い合わせください。

お問い合わせに際しては、製品番号（型番）「8R2102」をお伝えください。

お問い合わせ先 **お客様相談室 0120-557-005**

(フリーダイヤル)
受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

安全にお使いいただくために(はじめにお読みください)

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

■表示の説明について

表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区分して説明しています。

警告 「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

禁止 してはいけない「禁止」内容です。

注意 「傷害を負う可能性または物的傷害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

強制 必ず実行していただく「強制」内容です。

■誤飲による事故防止について

警告 小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かないでください。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

分解禁止 分解したり改造しないでください。故障の原因になります。

注意 本製品は精密機器です。落としたりして衝撃を与えないでください。故障や破損の原因になります。

■液晶表示板について

注意 表示部が破損して液晶が手などについた場合は、石鹸でよく洗い流してください。口や目に入ったときは、きれいな水で洗い流し、すぐに医師の治療を受けてください。

■使用場所について

禁止 下記のような場所では使わないでください。機械やケース、電池の品質が低下し、精度不良や時計、電池の寿命が短くなります。

- 温度が+50℃以上になる所。例えば、長時間直射日光のあたる所や暖房器具等の熱風や火気に近い所。
- 温度が-10℃以下のところでは、プラスチックが劣化したり、電池の性能が低下することがあります。
- 浴室など湿気が多いところ。
- ほこりが多く発生するところ。
- テレビ・OA機器・オーディオのそばなど強い磁気が発生する所。磁力の影響で、時計の進みや遅れが生じたり、止まることがあります。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- 温泉場など、ガスの発生する所。
- 多くの油を使用する所。霧状になった油分がケースや機械部に付着し、汚れや止まりの原因になります。
- 軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、相互に色移りしたり、付着することがあります。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。

時計の廃棄

- お住まい地区自治体の指定にしたがってください。

静電気の影響について

静電気の影響により正常に機能しなくなることがあります。このようなときにはリセットボタンを押ししてください。

おもな製品仕様

使用温度範囲	-10～50℃	液晶表示可読温度範囲	0～40℃	アラーム精度	表示時刻に対して±0秒
時間精度	表示精度	標準電波受信成功直後	±1秒	アラーム時刻	2つの時刻設定
	標準電波を受信しない場合			アラーム音	電子音+音声（日付、曜日、時刻）
		平均月差	±30秒（常温中のクォーツ精度）	スヌーズ機能	約5分停止 最大操作回数7回
使用電池	単3形アルカリ乾電池	JIS規格LR6	2個	自動鳴り止め	約2分でアラーム音停止
電池寿命	約1年			時報機能	毎正時に音声告知
	アラームを30秒/日、照明を3秒/日			カレンダー	2009～2069年まで対応
	報時 音量小で24回/日			温度表示	表示範囲 -9.9～+5.0℃
標準電波	カレンダー・時刻自動修正				表示範囲での精度 ±2℃
受信局	福島局/九州局	自動選択		照明機能	ライトボタンを押してから約3秒間照明
受信機能	ボタン操作でON/OFF切り替え			音声ガイド	音声合成
受信回数	8回/日				ON/OFF スイッチ操作
受信時刻	1時～4時、13時～16時の各時間帯の				
	16分40秒から受信開始				
手動時刻合わせ	ボタン操作				

※液晶はその特性上、0℃以下になると表示反応が遅くなり、表示が薄くなる場合があります。

40℃以上になると表示が濃くなり、ムラに見えることがあります。

※液晶表示板は5年を過ぎると、コントラストが低下して数字が読みにくくなる場合があります。

※製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

付属品 単3形アルカリ乾電池 2個 取扱説明書 本書 保証書 1枚

電波時計について

電波時計とは

電波時計は、正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

標準電波（JJY）は、日本標準時（JST）をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所あります。

※標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。（<http://jjy.nict.go.jp>）

海外でのご使用について

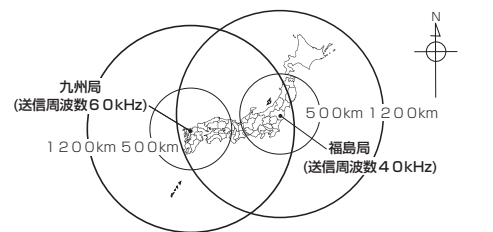
この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用するときには、電波受信機能を無効にして手動で時刻を合わせてお使いください。電波受信機能が有効になっていると、まれに日本の標準電波を受信したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。

標準電波の送信停止について

送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状況については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害（太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯（昼/夜）あるいは地形や建物の影響など）により、受信できないことがあります。

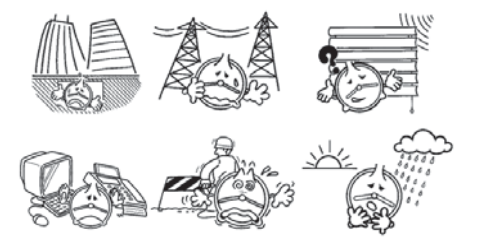


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

つぎのような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机などの金属製家具の上や近く



電池のご注意（電池の正しい使い方）

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス（+）、マイナス（-）を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時間が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手が届かないところに置く。

電池の種類について

- 本製品は電池の特性に合わせて設計されています。指定以外の電池では、製品仕様を満たさない場合や正常に機能しないことがあります。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。ⓧ **アルカリとマンガン乾電池の混在使用は液もれの原因となりますのでおやめください。**
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。
- 一部の高性能電池では、初期電圧が高く時計には不向きなものがあります。（例：Panasonic オキシライド乾電池）

取り扱いについて

電池からの液もれや発熱、破裂を防止するために、つぎのをお守りください。

- 警告**
- 電池に傷をつけたり、分解しない。
 - 電池をショートさせない。
 - 電池を充電しない。
 - 時計を使用しないときは電池を取り外す。
 - 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。

液もれが起きてしまったとき

警告 電池からもれた液が目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療をうけてください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

注意 もれた液に直接触れないでください。特にアルカリ乾電池には注意してください。ゴム手袋をして電池をはずし、もれた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときはお買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

電池の寿命について

- 付属の電池は、工場出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 使用環境の温度などにより、製品仕様より電池寿命が短くなる場合があります。
- 買い置きした電池を使用した場合、保管状態や乾電池に示されている「使用推奨期限」により、電池寿命が短くなる場合があります。

電池の廃棄

- お住まい地区自治体の指定にしたがってください。

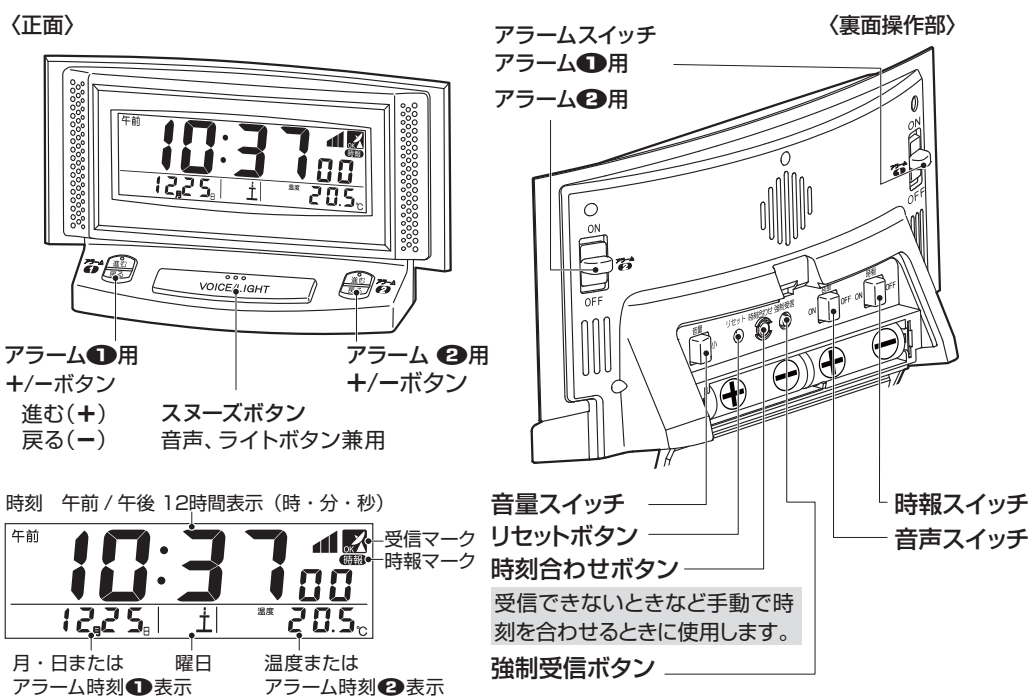
注意 火に入れると破裂の原因となり危険です。

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。

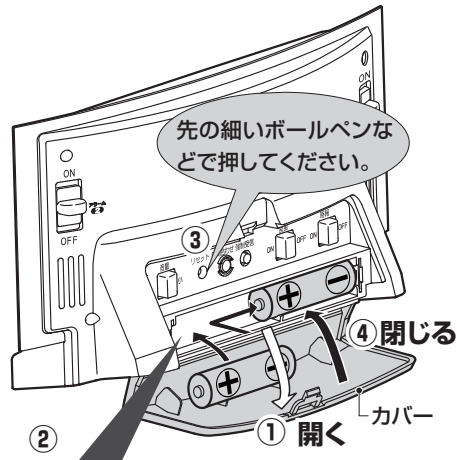
本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いません。

1 電波を受信して時刻を合わせる

図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。



液晶表示は見る角度によって、見えにくくなったり、ムラに見えることがあります。



電池ホルターの⊕⊖に合わせて電池を入れます。⊕⊖を逆向きに入れると、電池の液もれ、発熱、破裂の原因になります。

【受信の流れと表示】

〈リセットボタンを押した直後〉



受信マーク
〈受信開始〉(受信中点滅)



※電池を入れた直後およびリセットボタンを押した直後は、2009年1月1日、午前12:00にセットされます。



〈受信終了〉
最長21分後

受信に成功すると
受信マークが点灯



(受信に成功したときの表示例)

※受信マークは受信成功後、24～25時間点灯。
※受信に成功してもノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このようなときには、リセットボタンを押して再度受信を試みてください。

アドバイス

テレビ、蛍光灯などの家電製品やパソコンなどのOA機器からのノイズにより、電波を受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。このようなときは、場所を変えてからリセットボタンを押し、再度受信を試みてください。

標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくとう受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわで取扱説明書の日本地図を参考に、時計の正面または裏面が電波送信所になるべく向くように置き直し、リセットボタンを押して結果を確認します。

受信できない場合は、下記の操作で日付、時刻を設定することができます。

■手動での時刻合わせ

- (1)時刻合わせボタンを西暦年が点滅するまで約2秒間押し続けます。
- (2)西暦年、月、日、時刻(時、分)の順に設定します。
 - 進む(+)または戻る(-)ボタンを押して数値を合わせます。
 - 進む(+)または戻る(-)ボタンを押すつづくと速く変わります。
 - 時刻合わせボタンを押すとつぎのステップに移ります。

※電波受信機能が「ON」の場合、手動で時刻合わせをしても、自動受信を行い、受信に成功するとカレンダーと時刻を修正します。

※約30秒間ボタン操作をしないと、表示されている内容に設定して、手動時刻合わせを終了します。

※電波を受信できないときの時間精度は、平均月差±30秒になります。

A 強制受信とリセット操作

強制受信ボタン

場所を移動したときなど電波の受信を試みたいときに使います。受信に失敗した場合でも日付・時刻表示を継続します。

- 受信機能が無効のときは、機能しません。
- 手動で時刻合わせをしているときやアラーム時刻を合わせているときは機能しません。

リセットボタン

電池を入れた直後や静電気などにより誤作動したときに押します。リセット直後は、2009年1月1日午前12:00、アラーム①は午前6:00、アラーム②は午前6:30に初期化されます。

- 受信機能が有効になっているときは、受信を開始します。

B 電波受信機能のON/OFF操作

受信機能 OFF(無効にして手動で時刻を合わせる)

- リセットボタンを約1秒間隔で3回押してください。
- 「ビィ」と鳴ったらすぐに押してください。
- 受信機能がOFFになると「ビィ」と鳴りません。
- 年月日と時刻は手動で合わせてください。

○操作のタイミングによっては、ON/OFFが切り替わらないことがあります。このようなときには操作を繰り返してください。

○工場出荷時の設定は、電波受信機能は有効(ON)になっています。

受信機能 ON(有効にして受信を開始する)

- ーボタンを押しながら、リセットボタンを押すと「ビィ」と鳴って受信を開始します。その後ーボタンを離してください。
- 定期的に受信して標準時刻に合わせます。

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせるときには、標準電波を受信できない場合の「手動での時刻合わせ」をお読みください。

電波の受信しやすい窓際などに置いてください。

- 1 カバーを開ける
- 2 電池を入れる
- 3 リセットボタンを押す

「ビィ」と鳴って、受信マークが点滅し受信を開始します。「ビィ」と鳴らないときは、電波受信機能がOFFになっています。

※電波受信機能のON/OFF操作

- 4 カバーを閉める
- 5 受信開始から21分後に受信結果を確認する

受信には最長で21分程度時間がかかります。▶【受信の流れと表示】参照

受信成功:受信マーク点灯

受信失敗:受信マーク消灯

○受信中はボタンに触れないでください。

電波受信中のボタン操作について

電波の受信中に+または-ボタンを押すか、時刻合わせボタンを約2秒間押しつづけると、受信マークが消灯し受信を中止します。

受信マークの変化

電波の状態により変化します。(電波サーチ機能)

受信できない.....受信しやすい

1.....2.....3.....4

チェック!

1～2分経過しても1または2の受信状態のときには受信できません。場所を変えてリセットボタンを押し、再度受信を開始させてください。

2 アラーム機能の使い方

アラーム①と②、2つのアラームを使用することができます。

アラーム時刻を設定するときやアラームのON/OFFを切り替えるときには、アラーム①②それぞれの進む(+)/戻る(-)ボタン、アラームスイッチを使い分けてください。

- スヌーズボタンは①②共通です。
- アラームの時刻合わせの操作は①と②を同時にはできません。
- ▶2つのアラーム時刻が重なったときは、①が優先されます。
- ▶アラームが鳴っているときに、もう一方のアラーム時刻になったときは、後からのアラームが鳴り、スヌーズ機能とアラームオートストップ機能は、後のアラーム時刻が対象になります。

◆操作説明の例は、アラーム①を使用しています。

アラーム時刻の合わせ方

〈表示例〉アラームスイッチ①②がOFFのときに、アラーム①のアラーム時刻を設定。



午前/午後の表示に注意して時刻を合わせてください。

進む(+)ボタン
戻る(-)ボタン

操作するときには、アラーム①②それぞれに対応した+/-ボタンを使用してください。

- ①+または-ボタンを押す
アラーム時刻が点滅します。
- ②アラーム時刻を合わせる
+または-ボタンを押してすぐに離すと、1分進んだり戻ったりします。押しつづけると速く変わります。
- ③約7秒間ボタン操作をしないとアラーム時刻合わせを終了します。

アラームのON/OFF設定

〈表示例〉アラーム①ON、アラーム②OFF



アラームスイッチ①
ON ▶(●)アラームマーク点灯
設定時刻にアラームが鳴る
OFF▶アラームマーク消灯
アラームを止める、鳴らさない

アラームスイッチをONにすると、常時アラーム時刻を表示します。上の図では、日付が表示されていません。表示されない項目を表示させるには、アラームスイッチ①または②を一時的にOFFにしてください。

アラームオートストップ機能.....自動鳴り止め

鳴っているアラームを約2分間放置すると停止します。

スヌーズ機能.....止めてもまた鳴る

アラームが鳴っているときに、スヌーズボタンを押すと、アラームマーク(●)が点滅し、アラームが約5分間停止後、また鳴りだします。この操作は7回まで繰り返すことができます。8回目にスヌーズボタンを押すとアラームは停止してアラームマーク(●)は点灯表示になります。

アラームご使用上の注意

アラームオートストップまたはスヌーズ操作によりアラームが自動停止しても、アラームスイッチはONのままです。不要なアラームが鳴らないようにアラームスイッチをOFFにしてください。

アラーム音について

電子音アラームについて、日付、曜日、時刻を音声でお知らせします。これを3回繰り返し、その後は電子音アラームの繰り返しになります。音声スイッチがOFFでも音声でお知らせします。アラーム音を確認したいときには、アラーム時刻を現在時刻より1分程度先に合わせて、アラームスイッチをONにしてください。

3 音声ガイド

音声
ON OFF
音声スイッチをONにすると音声で日付、時刻、温度をお知らせします。また、アラームや時刻を設定しているときの状態をお知らせします。

音声スイッチがONのときの音声ガイド

- スヌーズボタンを1回押す : 「ビィ 午前10時37分です。温度は21度です。」
- ※時刻は秒を読み上げません。また、温度は小数点以下を四捨五入して読み上げます。
- スヌーズボタンを連続して2回押す : 「ビィ 12月25日 土曜日です。」
- ▶押す間隔が短すぎたり、長すぎると時刻と温度の音声が流れます。

その他の音声ガイド例

- ◇時報スイッチ
時報スイッチをONにする : 「ビィ 時報 ON です。」
- ◇音声スイッチ
音声スイッチをONにする : 「ビィ」
- ◇リセットまたは強制受信ボタン
リセットまたは強制受信ボタンを押す : 「ビィ 電波を受信します。」
▶リセットボタンを押したときには、5秒程度遅れて音声が流れます。
- ◇アラーム時刻を設定または確認
アラームスイッチ①をONにする : 「ビィ アラーム1は午前6時20分です。」
アラーム①の+または-ボタンを押す : 「ビィ アラーム時刻1を合わせます。ビィ アラーム1は午前6時00分です。」
アラーム時刻合わせのときに、アラーム①の+ボタンを押す : 「アラーム1は午前6時20分です。」
- ◇手動で時刻を合わせているとき
①時刻合わせボタンを押す : 「ビィ 年を合わせます。」「ビィ 2009年です。」⇒時刻合わせ開始
②+ボタンを押す : 「ビィ 2010年です。」
③時刻合わせボタンを押す : 「ビィ 月日を合わせます。」「ビィ 1月1日木曜日です。」
④-ボタンを押す : 「ビィ 12月1日 水曜日です。」
⑤時刻合わせボタンを押す : 「ビィ 12月1日 水曜日です。」
⑥-ボタンを押す : 「ビィ 12月25日 土曜日です。」
⑦時刻合わせボタンを押す : 「ビィ 現在時刻を合わせます。」「ビィ 午前12時22分です。」
⑧+ボタンを押す : 「ビィ 午前10時22分です。」
⑨時刻合わせボタンを押す : 「ビィ 午前10時22分です。」
⑩+ボタンを押す : 「ビィ 午前10時37分です。」
⑪時刻合わせボタンを押す : 「12月25日土曜日 午前10時37分です。」⇒時刻合わせ終了

●アラーム時刻の設定や手動で現在時刻を合わせているときの注意
音声が流れている間に+または-ボタンを操作すると表示と音声不一致になりますが、つぎのステップに移るときや設定が終わるときには、設定内容を音声で正しくお知らせします。

音量の選択

音量
音量スイッチにより、「大」または「小」を選択できます。
大 小
※音量スイッチを操作しても、「大」「小」を告げる音声ガイドはありません。

4 時報機能

時報
ON OFF
時報スイッチをONにすると時報マークが点灯して、毎正時に音声で時刻をお知らせします。
※音声スイッチがOFFでも機能します。
※暗くなると自動停止する機能はありません。

例 午前10時のとき

「午前10時です。」と告げ、その後「ビィ、ビィ、ビィ、ポー」と鳴ります。
「ポー」と鳴ったときが10時です。

5 表示面の照明

スヌーズボタンはライトボタンを兼ねています。ボタンを押すと約3秒間、液晶表示面を照明します。照明されているときには、時計正面やや上方より見てください。他の方向から見ると読み取れないことがあります。

温度表示

センサーが時計内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。

測定範囲を超えたときの表示とその意味

温度 [HH.H] 50℃より高温 [LLL] -9.9℃より低温

設置場所について

- 空気がよく循環する場所に設置してください。
- 直射日光の当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くを避けてください。
- 温室、サウナ、浴室、冷蔵庫、車の中では使用しないでください。

※本製品は室内用です。室内の温度計測以外の目的では使用できません。また厳密な温度管理を行う用途には適していません。